

会津でのソバによる遊休農地再生利用の優良事例

福島県農業総合センター会津地域研究所

1 部門名

農業経営－農業経営－地域農業・農村社会

2 担当者名

真部武、中山秀貴

3 要旨

ソバ栽培は省力、省資源的な栽培が可能であり、遊休農地再生農地での導入品目として有望である。遊休農地の拡大抑制、解消に資するため、今後、同様の取組を行う組織等の参考となるよう、会津地域において先進的にソバによる遊休農地再生利用を行っている事例を調査し、事業内容や再生対象ほ場の特徴を明らかにした。

(1) 調査は表1に示す2組織を対象に行った。

(2) 事業内容の特徴として、国等の再生支援事業を活用している、再生に使用する機械類は少なく既保有のもので自ら行う、等の共通点があった(表1)。

(3) 再生対象のほ場の特徴として、不耕作後の経過年数が少なく再生が容易、再生後のソバ生産性は低くない、生産拠点の近隣かつ連担性が高い、等があげられた(表1)。

表1 調査対象及び事業内容の概要

	調査対象A(農業法人、南会津町)	調査対象B(家族経営、会津美里町)
主要生産作物等 ^{*1}	ソバ(80ha)、タカナ(2ha)、ソバ食堂経営	水稻(12.5ha)、ソバ(26ha)、大豆(12ha)等
再生面積、作付け作物	85ha。大部分ソバを栽培。	4.2ha。初作ソバを栽培し良排水ほ場では大豆を栽培。
活用した再生支援事業の内容	除草、抜根、整地等の再生作業、土壌改良、施設整備に対する補助。	除草、抜根、整地等の再生作業、土壌改良に対する補助。
再生作業実施者	当法人で実施。	本人が実施。
再生作業での使用機械	所有するトラクターモア、バックホー。	所有するトラクターモア、バックホー、ブームスプレーヤー等。
再生作業の作業工程	機械除草・低木伐採→農薬除草→耕耘・抜根→土壌改良資材施用、耕耘→整地	機械除草・低木伐採→農薬除草→耕耘・抜根→土壌改良資材施用、耕耘→整地
再生対象ほ場の状態	不耕作から数年のほ場が多く、木本少ない。	不耕作から数年のほ場が多く、木本少ない。
再生ほ場のソバ生産性	秋ソバのみ栽培。平均反収50kg/10a程度。多くは畑地で水はけが良く、地力が極端に少ないほ場はない。ほ場が生産拠点の5km以内でかつ連担性高い。	秋ソバのみ栽培。平均反収50~60kg/10a。地目は畑地で、概ね水はけがよく、地力が低いほ場は少ないが、全体的に礫が多い。ほ場の多くは生産拠点の2km以内でかつ連担性高い。
再生・ソバ生産で苦慮している点	鳥獣害(シカによる食害)対策。	地域的に礫の多いほ場が多く、近年ストーンクラッシャーを導入。

※1: 対象Aは2021年、対象Bは2022年時点

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和3~4年度

(2) 研究課題名 中山間地における農地管理技術の開発

5 主な参考文献・資料

(1) そば・麦の導入による耕作放棄地の再生利用実施計画の作成手順(農研機構、2013年)